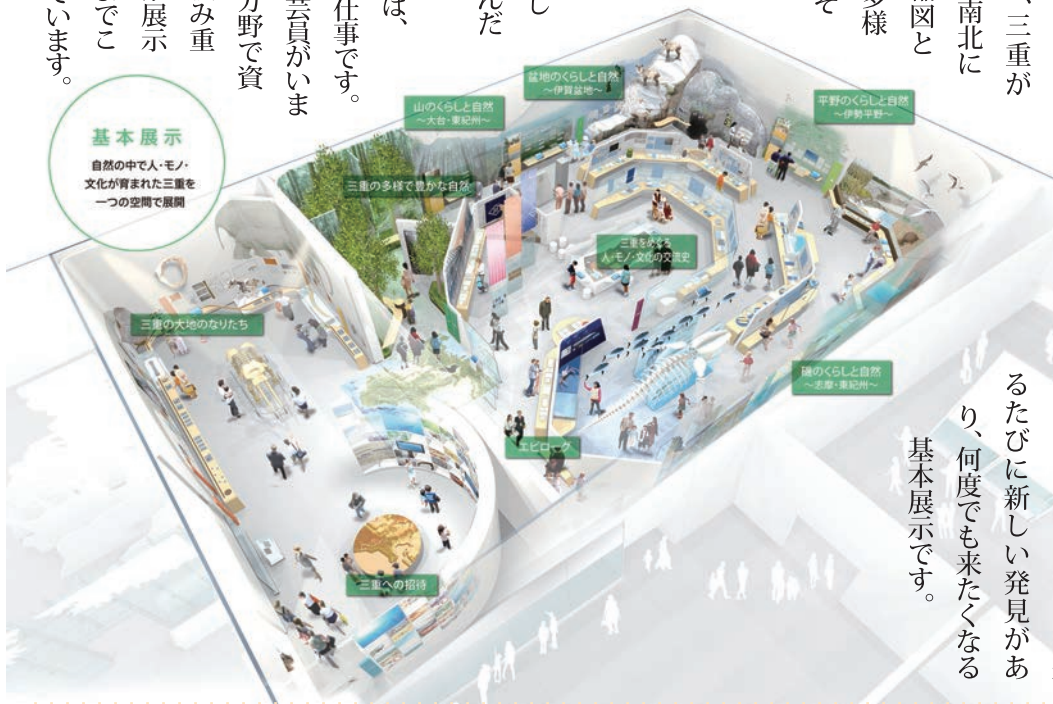


三重の自然と歴史・文化の総合博物館 MieMu

基本展示は、三重の多様で豊かな自然と、その中で育まれてきた私たちのくらしと歴史が一体となった総合展示です。全国の博物館でも自然と人文それぞれの分野がひとつの展示室で総合的に展示されるのは珍しいことだと言えます。

MieMuのテーマは、三重が持つ『多様性の力』です。南北に長い三重県は、日本の縮図ともいえる豊かな自然と多様な生態系がみられます。そこには自然と関わり合いながら育んできた人びとのくらしがあり、また東西文化の結節点として、古来より人・モノ・文化の交流が盛んでした。三重には多様性に富んだ面白さがあります。

これらの展示を創るのは、MieMuで働く学芸員の仕事です。現在、博物館には17名の学芸員がいます。学芸員はそれぞれの分野で資料の収集や調査研究を積み重ねてきました。その結果が展示に反映されており、細部までこだわり抜いた内容となっています。



一方的に見るだけの展示ではなく、見る人が自分の知識やこれまでの経験を振り返り、『自分たちの地域の自然や歴史・文化に関心を持つきっかけ』につながればという思いが込められています。だからこそ来るたびに新しい発見があり、何度でも来たくなくなる基本展示です。

本物の自然を見る

MieMuの屋外にあるミュージアムフィールドは、博物館内の展示にもつながる屋外展示として、アベマキやシイの林が広がるかつての里山の一部が今も残されています。本物の自然に触れることができるので、MieMuを訪れたら立ち寄り寄ってほしいスポットです。

『木のずかん』コーナーでは紙の原料となるコウゾやミツマタなど、わたしたちのくらしと関わりのあるさまざまな植物が植えられ、ミュージアムフィールド全体がまるで『ミニ植物園』のようになっています。



林の中には自由に入ることができ、夏にはカブトムシを捕まえたり、秋にはドングリを拾ったりと、四季を通じて色々な動植物とふれあうことができます。

